

# Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス  
東京都港区東新橋1-9-1

## 為替週間展望 = ドル円は方向性を探る動きか

[1月15日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	1月8日～1月12日			
始値 高値 安値 終値 前週比				
ドル・円	144.67	146.41(11)	143.42(9)	145.10 +0.47
ユーロ・ドル	1.0942	1.0996(11)	1.0911(9)	1.0976 +0.0033
=====				
国内株・金利/米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	35,577.11	+2199.69	日本10年債利回り	0.594 -0.016
ダウ平均株価	37,711.02	+244.91	米10年債利回り	3.966 -0.080
=====				

<来週の主要経済統計等>

- 15日 ユーロ圏1月鉱工業生産指数、ユーロ圏1月貿易収支  
カナダ1月卸売売上高、カナダ1月製造業出荷  
世界経済フォーラム(WEF)年次総会(通称ダボス会議、19日まで)
- 16日 英12月雇用統計  
独12月消費者物価指数確報値  
独1月ZEW景況感指数  
米1月NY連銀製造業景気指数  
カナダ12月消費者物価指数
- 17日 中国第4四半期GDP、中国12月鉱工業生産指数、中国12月小売売上高  
英12月消費者物価指数、英12月生産者物価指数、英12月小売物価指数  
ユーロ圏12月消費者物価指数確報値、  
カナダ12月鉱工業製品価格  
米12月小売売上高、米12月輸入価格指数  
米12月鉱工業生産・設備稼働率  
米地区連銀経済報告(ページブック)
- 18日 日本11月機械受注  
豪12月雇用統計  
日本11月鉱工業生産指数確報値  
ユーロ圏11月経常収支  
ECB議事要旨(12月会合)  
米12月住宅着工・許可件数、米1月フィラデルフィア連銀景況指数  
米新規失業保険申請件数
- 19日 日本12月消費者物価指数  
独12月生産者物価指数  
英12月小売売上高  
スイス12月生産者・輸入価格  
カナダ11月小売売上高  
米1月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値、米12月中古住宅販売件数  
米11月対米証券投資

【前回のレビュー】米消費者物価指数が市場予想を上回るとドル買いにつながりやすいとみられるが、過去数か月おおむね順調に鈍化傾向を示している。このため、予想を下回るようだとも早期の利下げ期待の高まりからドル売りの流れに傾きやすい展開となりそう。こうした中、ドル円は戻りが一服すると、再び下げに転じやすい展開が見込まれるとした。

【ドル円は米消費者物価指数を受けて乱高下】

5日に145.97近辺まで上昇したものの、146円乗せに失敗すると、修正安に転じた。ただ、押しは浅めで143.40台までの下げにとどまり、その後は再び堅調な流れを見せた。11日の米消費者物価指数の後は高値圏で荒れた動きとなった。

国内では日経平均が3万5000円台に乗せるなど年初から大幅な株高傾向が続いており、円売りに傾きやすくなっている。10日発表の日本11月実質賃金総額（前年比）が-3.0%となり、事前予想の-2.0%を下回った。また、1日に発生した能登半島地震の影響もあり、1月の日銀金融政策決定会合でのマイナス金利解除は見送られるとの観測も円売りにつながっている。

また、10日にはウィリアムズNY連銀総裁は、「しばらくの間、抑制的なスタンスを維持する必要がある」「有意なインフレの進展が見られたが、2%にはまだほど遠い」と述べ、2%のインフレ目標の達成のために金融引き締めのスタンスの維持の必要性を強調した。日米の金融政策の方向性の違いがドル買い円売りの背景にある。

11日に発表された12日の米消費者物価指数は、総合は前年比+3.4%となり、事前予想の+3.2%や前回の+3.1%を上回った。コア前年比は+3.9%となり、前回の+4.0%は下回ったものの、事前予想の+3.8%は下回った。

発表後にドル円は上下に激しく振幅した。146.40台まで急伸したものの、その後は145円台前半まで下落するなど一方の流れに傾かなかった。米消費者物価指数は一時的に上振れしたものの、今後の大きな流れではインフレはさらに減速して、米連邦準備制度理事会（FRB）は利下げに動くとの観測が根強いようだ。

CME FEDウォッチでは、3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利下げ確率は70%前後と高水準を維持している。一方で、日銀の緩和的なスタンスはしばらく続くとみられる。こうした中、ドル円は方向性を探る展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、143.50～147.50円。

日米の経済指標やイベントとしては、16日に米1月NY連銀製造業景気指数、17日に米12月小売売上高、米12月輸入価格指数、米12月鉱工業生産・設備稼働率、18日に日本11月機械受注、日本11月鉱工業生産指数確報値、米12月住宅着工・許可件数、米1月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、19日に日本12月消費者物価指数、米1月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値、米12月中古住宅販売件数、米11月対米証券投資などがある。

【ユーロドルはもみ合いが継続か】

ユーロドルは5日の米雇用統計の発表後に大きく振幅した。その後は1.0900台を中心とするもみ合いを見せている。10日には1.0920台から1.0970台まで上値を伸ばした。欧州中央銀行（ECB）のシュナーベル理事が現時点では「利下げに関する議論は時期尚早」との見解を示したことなどが背景にある。市場関係者の間では、ECB理事会では3月4月ごろから利下げに動くとの見方が広がりつつあるが、そうした見方をけん制する見解を示しており、ユーロドルの下支えにつながった。

そうした中、11日の米消費者物価指数を受けてユーロドルも上下に振幅した。ユーロドルは一時1.1000ドル手前まで上昇した後は売りに押されたものの、1.09台前半までの下げにとどまるなど、底堅い動きを見せた。ユーロドルは方向感が出ていく中、レンジ内でのもみ合いで推移することとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0850～1.1050ドル。

ポンドドルは5日の米雇用統計の発表後に乱高下したものの、その後は1.2600～1.2700台で堅調な推移を見せている。10日にベイリー英中銀総裁は、「英インフレを目標に戻すことが重要」「英国は失業率の急上昇を見ておらず、家計所得はここ数カ月増加していることが、金利上昇の影響を緩和する」と述べた。

他の中銀と比べて、英中銀（BOE）は主要中銀の中でタカ派姿勢を維持している。利下げ開始時期の見通しは5月か6月前後とECBに比べて遅めとなっている。このた

め、ポンドドルは押したところでは底堅い推移を見せている。ただ、堅調なドルの動きに押されて、ポンドドルは大きくは上値を伸ばしにくく、もみ合いながら緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ポンドドルの目先の予想レンジは、1. 2650～1. 2900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、15日にユーロ圏11月鉱工業生産指数、ユーロ圏11月貿易収支、16日に英12月雇用統計、独12月消費者物価指数確報値、独1月ZEW景況感指数、カナダ12月消費者物価指数、17日に中国第4四半期GDP、中国12月鉱工業生産指数、中国12月小売売上高、英12月消費者物価指数、英12月生産者物価指数、ユーロ圏12月消費者物価指数確報値、18日に豪12月雇用統計、ユーロ圏11月経常収支、19日に独12月生産者物価指数、英12月小売売上高、スイス12月生産者輸入価格、カナダ11月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。